

特色 1

ともに学ぶ力・深く学ぶ力を育む 内容構成の工夫

1

1 章の学習を見通す導入ページ「学習を始めよう」 p.59-61

章の学習内容をイメージできるような資料を中心に、導入ページを構成しました。資料の読み解きの活動を通じて、生徒が興味・関心や見通しをもって、章の学習に取り組めるように工夫しました。

good

次の章へ

章の流れ

1 導入ページ

2 本時ページ

2 貴族から武士へ 院政と平氏政権

学習課題？ 平氏は、どのように政治の実権を握り、どのような政治を進めたのでしょうか。

確認！ 平清盛が権力を握るきっかけとなったできごとを確かめよう。

表現！ 平氏の政治と、藤原氏の摂関政治を比べて、どのような共通点や違いがあるか説明しよう。

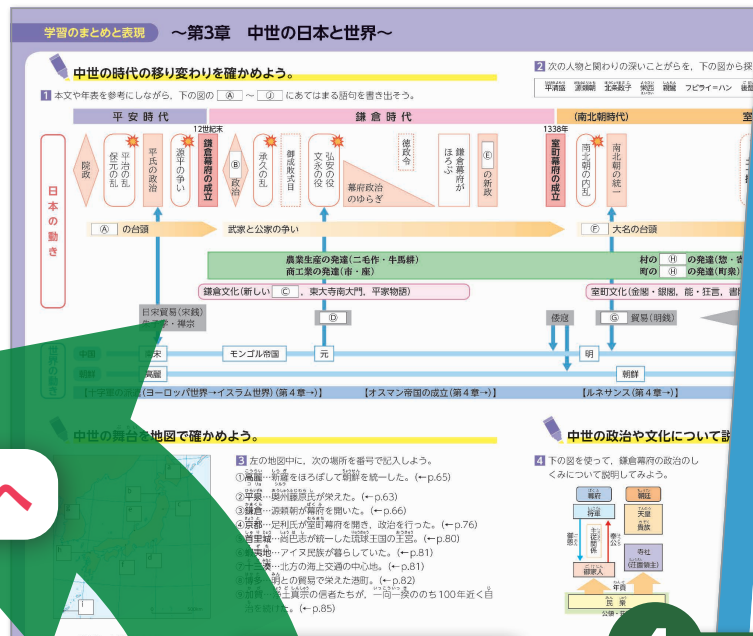
2

2 学習内容を理解しやすい「本時ページ」 p.64-65

1時間＝見開き2ページごとに「学習課題」（学習の見通し）と、「確認／表現」（振り返り）を設け、生徒の主体的な学習や、確実な内容理解を促します。

見通し・振り返りの学習活動に取り組みやすい内容構成

内容のまとまりごとの見通し・振り返りの学習場面をいっそう充実させ、主体的・対話的で深い学びを実現しやすい構成にしました。思考・判断・表現する活動を通じて、より深い理解を促すことができます。



4 学習のまとめと表現ページ

4 章の学習を振り返るまとめのページ「学習のまとめと表現」 p.92-95

章全体の学習を振り返り、年表や地図にまとめる作業を通じて、基礎・基本の確実な定着を促します。また、自ら考察し、集団で表現し合う活動を位置づけ、学習した知識や思考の過程を再確認することができるようにしています。

3 特設ページ

働く女性や子どもたち



女性や子どもと農業

歴史では、主に紙に文字で情報を記録した文書や、出土した遺物などをもとに、過去のできごとを明らかにします。一方で、時代によっては文書資料があまり残されていないこともあり、また、文書を作成したり保管したりする仕事は、成人男性に限られているため、過去の時代の女性や子どもの様子を知るための手がかりとなるのが、物語や絵画です。ここでは、絵画をもとに、中世の女性や子どもの様子を読み解いていきます。



女性や子どもと商業

この絵には、舟橋をわたる大人の男性が、天竺の仕事をしている様子や、子どもたちが、水もりや播種などの手伝いをしている姿が描かれています。子どもたちは、まだ大人ではないため、舟橋をわたる様子も描かれています。中世には、各地に市が開かれるようになり、商業が盛んになりました。こうした動きを背景に、職人や商人として活躍の場を広げる女性も増えていきました。『七十一番職人歌合』には、142の職業が描かれており、そのうち34の職業では女性が描かれています。こうした絵画資料を読み解いていくと、当時の、性別の役割などで職種が限定される面もあった一方で、女性は、家事や農業だけでなく、商業などさまざまな職業で、幅広く社会で活躍していたことがわかります。

3 視点を変えて捉えなおす「特設ページ」 p.88-89

本時で学習した内容について、視点を変えて捉えなおすことができるテーマを設定しました。生徒が現代社会の諸課題と照らし合わせ、多面的・多角的に考察できるよう工夫しています。

2 学習の流れを見通しやすく、思考・判断・表現する場面を適切に位置づけたページ構成

1時間＝見開き2ページの中に、本文・資料・学習活動をバランスよく位置づけ、より学びやすい紙面にしました。資料を読み解く手がかりを示すなど、生徒が自ら学ぶことができ、確かな学力を獲得できるよう工夫しています。

2 1時間の学習を見通す「タイトル」・「学習課題」・「時代スケール」

- ・タイトルには、学習内容を象徴するような言葉を用い、生徒が自ら「知りたい・考えたい」と意欲を高められるよう工夫しました。
- ・学習課題では、この時間の学習で何について追究していくのか、学びの見通しをもてる課題を示しました。
- ・時代スケールは、この時間で学習する時期を意識することができ、歴史の大きな流れと関連づけることに活用できます。

3 理解しやすい「本文」

平易な表現で、できごとの関係性を捉えやすく、生徒が学習内容を理解しやすい「読んでわかる」文章です。

4 理解を深める「資料」

本文と関連する地図・写真・図などの豊富な資料により、学習内容についてイメージを伴ってより深く理解することができます。本文と資料の関連を番号で示し、本文と資料を結びつけて学習を進めることができます。

1 学習のきっかけとなる「導入」

学習内容の中心となる資料を大きく掲載し、生徒の興味・関心を高めます。資料を読み解く視点のヒントをキャラクターの言葉として示し、すべての生徒が意欲的に取り組めるようにするなど、授業で活用しやすい導入部にしました。



1 武士の館
〈「一遍上人絵伝」
清浄光寺
〔遊行寺〕蔵〉

武士の館は、
貴族の屋敷と
どこが違うだろう。

国宝

世紀	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
縄文																					
弥生																					
古墳																					
飛鳥																					
奈良																					
平安																					
鎌倉																					
室町																					
戦国																					
安土・桃山																					
江戸																					
幕末																					
明治																					
大正																					
昭和																					
平成																					

4 弓馬の道 ▶ 鎌倉時代の人々の暮らし

学習課題 鎌倉時代の人々は、どのような暮らしをしていたのでしょうか。

歴史の技

絵巻物を読み解こう

絵巻物は、文章(詞書)と絵が交互につなげられ、物語が展開していくように作られた巻物です。建物の天井や壁をあえて描かないことで、室内の様子が見えるようにしたり、一つの絵の中に同一人物を何度も描くことで、できごとの進行を表したりする表現が特徴的です。絵巻物からは、当時の人々の様子を読み取ることができます。資料1を読み解いてみましょう。

- ① 貴族の寝殿造(←p.50)と比べて、武士の館らしい特徴を三つあげよう。
- ② 館ではどのような動物が飼われているか。また、それによって何がわかるか。



2 絵巻物の形(資料1の場面)

武士の暮らし

鎌倉時代には、鎌倉や京都に屋敷をもつ有力な武士が増えましたが、地方の武士は、領地のなかでも交通や水利のよい場所に、堀や塀で囲んだ館を設けて暮らしました。武士は領主として、下人や近くの農民を働かせて館の周辺の田畑を耕作し、自らは乗馬や弓矢の武芸にはげんで戦いに備えました。武士の一族は、惣領を中心に血縁によって団結し、領地は惣領でない者にも分割相続されました。武家の女性も、土地を相続することができたため、地頭になり、一族の中心として領地を支配する女性も現れました。しかし、やがて新たな領地を得られなくなると、一族の間で争いが起こることもありました。

地頭の支配

公領や荘園の地頭となった武士は、土地の管理や年貢の取り立てを行いました。有力な武士の中には、いくつもの荘園や公領の地頭となる者も現れました。地頭がおかれた荘園では、地頭になった武士が、土地や農民を支配しようとして、荘園領主とたびたび争いました。こうした争いは幕府の裁判によって決着し、地頭が一定額の年貢の納入をうけ負

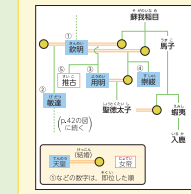
資料活用を促し、学び合いを支援する「歴史の技」・「読み解こう」

資料を活用しながら学習を深められるように、資料の読み解きを支援するコーナーを設けました。「歴史の技」では、資料活用の方法や手順を示し、歴史学習に必要な技能の習得を支援します。「読み解こう」では、資料を読み解く視点を問いの形で示し、生徒が自ら資料を活用する力を育みます。

歴史の技

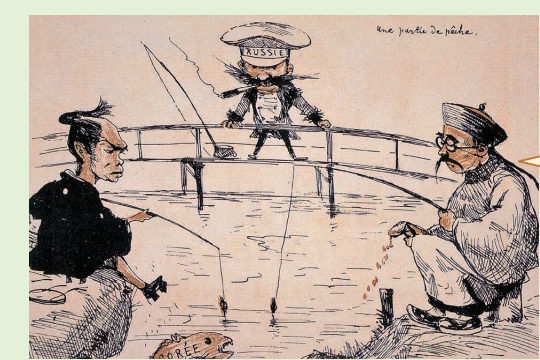
系図を読み解こう

系図は、一族の代々の系統を表した図です。一般的には上から下に連なって書かれていて、縦のつながりは親子関係を、横のつながりは兄弟姉妹関係を示します。二重線は婚姻関係を示します。系図からは、歴史上の人々の関係性などを読み取ることができます。系図からは、聖徳太子と蘇我馬子は、どのような関係といえるだろう。



4 蘇我氏と聖徳太子の系図

▲ p.41



1 東アジアの国際関係を描いた風刺画(ピゴー画)

読み解こう

- 1 1の絵では、日本を含む4か国が、人物や魚にたとえられています。魚をつっている左右の人物は、どの国のことだろう。また、魚はどの国を表しているのだろう。
- 2 橋の上の人物は、どの国のことで、何を考えているのだろう。
- 3 この絵は、東アジアのどのような国際関係を表しているのか、説明してみよう。

フランス人のピゴーは、各国をどのように見ていたのだろう。

5 視点をえて捉えなおす「歴史の窓」

本文とは視点をえて学習内容を捉えなおすことができます。歴史的事象について、生徒の多面的・多角的な思考や理解を促します。

6 本時の学習をまとめる「確認」と「表現」

学習課題に対応した2段階の問いで、本時の学習を振り返り、基礎・基本の確実な定着を支援します。

確認

「確認」は、学習を振り返って整理するステップです。

表現

「表現」は、学習内容を自分の言葉で説明したり、対話したりすることで深い学びへとつなげるステップです。

歴史の窓

地頭を訴える農民

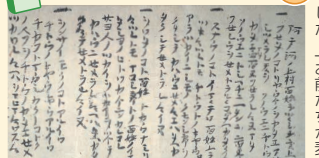
紀伊国(和歌山県)の阿弓河荘は、京都の寂庵寺の荘園でしたが、地頭の湯浅氏が着任すると、農民は地頭の支配も受けようになりました。地頭は、武力を用いて農民に労役などの負担を強制しようとして、これに対して農民は、荘園領主の力で地頭の乱暴をやめさせようと、13か条からなる訴状をまとめて領主に訴えました。1275年に出された訴状は、農民自らが主に片仮名を使って書きました。

うことで荘園の支配を任せられたり、荘園の半分を地頭に与えたりして、地頭の権力が強くなっていきました。一方で農民は、領主と地頭との二重の支配を受けて苦しみました。集団で地頭の勝手な支配を領主に訴えるなどして、暮らしを守ろうとしました。

鎌倉時代には自然災害などによる飢饉も起こりましたが、農地の開発が進み、農業技術も発達しました。田畑に水を引き入れるかんがいの整備が進み、牛馬や鉄製の農具を使った農耕が広まり、草木を焼いた灰などの肥料も使われ始め、農業生産が高まりました。西日本を中心に、同じ田畑で米を収穫した後に麦を栽培する二毛作が始まりました。

農業の発達とともに、手工業や商業も盛んになりました。農村にも、農具などの鉄製品を造る鍛冶や、布や衣服を作る者が現れました。寺社の門前や水陸の交通の要所には、年貢や商品の輸送や取引を行う問屋が現れ、定期市が開かれました。市での売買には宋銭が使われ、やがて年貢も銭で納められるようになりました。また、京都や鎌倉では、銭を貸す高利貸しも現れました。

5 農民の訴状(高野山聖宝館蔵) 国宝



阿弓河荘上村の百姓が、ついでに申し上げます。…(略) 一(領主に)納める材木のことですが、地頭が都に行くとか、近所の労働などと言っては、人夫として地頭の所でこき使われますので、その余裕がありません。わずかに残った人々、材木を運出しに山へ行かせたところ、地頭が選けた百姓の畑に麦をまき、といつて追い戻してしましました。一お前たちが麦をまかないと、妻子を閉じ込めて、耳を切り、鼻を、髪を切つて辱に、縛り立てられますので、材木の納入がさらに遅れてしまったのです。…(略)

1 やがて、あとつぎの者一人に相続させる単独相続が行われるようになり、女性の財産の権利も制限されるようになっていきました。

確認 鎌倉時代に、農業や商業はどのように変化したか確かめよう。

表現 農民と地頭、荘園領主の関係について、図に表して説明しよう。

持続可能な社会の実現に向け、課題解決に取り組むことができる内容の充実

自己と歴史との関係について考えを深められる資料ページ 巻頭1・2

生徒が自分たちと歴史のつながりを意識できる「私たちにつながる歴史」(巻頭1・2)や、歴史の大きな流れを見開きで一覧することができる「歴史年表」(巻末2・3)、歴史の中で人々がどのように世界を捉えてきたのかを考えることができる「世界地図の歴史」(巻末4)などの資料ページを充実させました。

good

私たちにつながる歴史

さまざまな人たちの努力で、伝統や文化財が受け継がれてきたんだ。

アヌ民族の伝統的な舞踊を披露する人々たち(北海道釧路市)

鉄道の安全や豊満を祈る祭りの伝統行事「面走ハリー」で、電車を走らせ、競い合う人々たち(静岡県静岡市)

長崎くんちで参詣者を楽しめる人々たち(長崎県長崎市)

日光東照宮の「三猿」の修復を行う様子(栃木県日光市)

地震の被害を受け、修復作業が進められる熊本城(熊本県熊本市)

人々の政治参加のあり方

明治時代の選挙(東京市)

戦後初めて行われた衆議院議員選挙

メディアの多様化

地震を経験した江戸時代の江戸

大正時代の新聞

防災の授業で災害情報をやりとりする高校生

家庭に普及したラジオ(茨城県)

科学・技術の発展

アメリカのライト兄弟が開発した飛行機

国際宇宙ステーションから分道した「こうのとり」7号機

日本人乗組員、人海星がよんだ和歌

主権者として社会に参画する意識を高めることができる教材・内容

持続可能な社会の実現に関わる社会の諸課題の扱いを充実させ、生徒がそれらの課題を、歴史の流れをふまえて考察することができるように工夫しました。また、地域社会と関わりながら学習できるページを充実させました。

政治や人権の歴史を捉えやすい紙面

生徒が、現在の政治や人権について、歴史の流れに位置づけながら思考・理解を深めることができるよう、政治や人権の来歴を取り扱うページを充実させました。本時ページでは、各時代の政治や人権の動きを学習しやすい構成を工夫しました。特設ページでは、女性や民衆など、政治・社会に参画した人々の姿を取り上げました。

政治や人権の歴史を捉えやすい紙面

生徒が、現在の政治や人権について、歴史の流れに位置づけながら思考・理解を深めることができるよう、政治や人権の来歴を取り扱うページを充実させました。本時ページでは、各時代の政治や人権の動きを学習しやすい構成を工夫しました。特設ページでは、女性や民衆など、政治・社会に参画した人々の姿を取り上げました。

自由民権運動の演説会の様子

自由民権運動の演説会の様子(東京大学文学部附属図書館蔵)

自由民権運動の演説会の様子(東京大学文学部附属図書館蔵)

明治期の面影を訪ねて——近代に生きた地域の人々

明治期の面影を訪ねて——近代に生きた地域の人々

明治期の面影を訪ねて——近代に生きた地域の人々

植木枝盛と中江兆民

植木枝盛と中江兆民

植木枝盛と中江兆民

多摩の自由民権運動

多摩の自由民権運動

多摩の自由民権運動

身近な地域の歴史を調べよう

身近な地域の歴史を調べる学習の方法について学びましょう。(ここでは新潟県新潟市を例に進めます。)

新潟市は、新潟県庁所在地で、人口約30万人、面積約1,200平方キロメートル、人口密度が非常に高い。新潟市は、新潟県庁所在地で、人口約30万人、面積約1,200平方キロメートル、人口密度が非常に高い。

テーマを決めよう

テーマを決めよう

テーマを決めよう

地域調査の手引き

地域調査の手引き

地域調査の手引き

地域調査の手引き 1

地域調査の手引き 1

地域調査の手引き 1

調査全体の見通しを立てよう

調査全体の見通しを立てよう

調査全体の見通しを立てよう

自ら地域と関わる力を育む

自ら地域と関わる力を育む

自ら地域と関わる力を育む

「身近な地域の歴史を調べよう」

「身近な地域の歴史を調べよう」

「身近な地域の歴史を調べよう」

社会と関わる人々の様子を多数掲載した現代史

社会と関わる人々の様子を多数掲載した現代史

社会と関わる人々の様子を多数掲載した現代史

災害時における共助・公助の場面や、国際支援の様子など、現代に生きる人々の多様な社会との関わりについて、扱いを充実させました。

災害時における共助・公助の場面や、国際支援の様子など、現代に生きる人々の多様な社会との関わりについて、扱いを充実させました。

災害時における共助・公助の場面や、国際支援の様子など、現代に生きる人々の多様な社会との関わりについて、扱いを充実させました。

2 社会的な課題を多面的・多角的に捉え、考察することができる教材・内容

コラム「歴史の窓」や特設ページを充実させ、本文とは異なる視点から歴史を捉えなおすことができるように工夫しました。資料を活用しながら多面的・多角的に考察し、根拠をもって判断し、豊かに表現する力を育みます。

学習内容の背景や影響を考察することができる「歴史の窓」

本文で学習した内容について、その歴史的事象の背景や影響を扱うコラムです。全体で19テーマを設けています。たとえばp.64～65では、本文で平氏政権を取り上げていますが、「歴史の窓」では、日宋貿易の相手国である宋の科学技術や文化などについて扱っています。またp.273の「歴史の窓」では、冷戦下の核開発や高度経済成長期の公害問題などと、特撮映画とのつながりを取り上げ、社会的なできごとが文化にも影響を与えていることに気づける内容になっています。

▲ p.64-65

歴史の窓 宋と高麗

10世紀後半に中国を統一した宋(←p.50)は、12世紀前半に、北方におつた金との戦いに敗れ、都を南に移しました(南宋)。宋では、長江以南でも新田の開発が進み、新たな都が発達しました。茶や陶磁器などの生産も盛んになり、銅の貨幣(宋銭)とともに日本に輸出されました。また、木版印刷が広まり、火薬や羅針盤が実用化されるなど、科学技術が発達しました。仏教では、禅宗や浄土宗が栄え、日本の仏教にも影響を与えました。儒教では、家族の秩序や身分の上下を重んじる朱子学が確立されました。

10世紀前半に朝鮮を統一した高麗(←p.50)では、仏教を国教とし、儒教が学問として盛んになりました。また、木版印刷が広まり、火薬や羅針盤が実用化されるなど、科学技術が発達しました。仏教では、禅宗や浄土宗が栄え、日本の仏教にも影響を与えました。儒教では、家族の秩序や身分の上下を重んじる朱子学が確立されました。

12世紀の東アジアと日宋貿易

5 厳島神社(広島県) 国宝

▲ p.64-65

歴史の窓 戦後復興期

戦後、GHQは占領政策の推進の中で言論の自由を認め、新聞・雑誌・書籍の出版が盛んになりました。占領の影響で、ジャズ音楽やハリウッド映画などのアメリカ文化が広まり、人々に親しまれました。娯楽や文化は戦争中の統制を解かれ、街には「リンゴの唄」などの明るいロディが流れて、人々に解放感を与えました。

また、黒澤明などの映画が海外でも高く評価され、1949年(昭和24)年に、物理学者の湯川秀樹が日本人として初めてノーベル賞を受賞するなど、人々を元気づけるできごともありました。

テレビの普及と文化の大衆化

戦後も、戦前から普及していたラジオと映画が大衆の娯楽の中心でしたが、1953年にテレビ放送が始まり、高度経済成長期にテレビが急速に普及しました。テレビによって、芸能やスポーツなども家庭で楽しめるようになり、歌手の美空ひばりや、プロ野球の長嶋茂雄や王貞治、相撲の大鰐、プロレスの丹波山などが人気を集めました。半導体技術が発達し、家庭用テレビが普及しています。

8 わが家にテレビがやってきた ▶マスメディアの発達と戦後の文化

学習課題 2 戦後から高度経済成長期にかけて、人々の生活や文化はどのように変化したのでしょうか。

4 湯川秀樹 (1907～1981) 電子理論を発見してノーベル物理学賞を受賞した。のちに長崎原爆に反対する立場をとり、平和運動に尽力した。

戦後復興期

戦後、GHQは占領政策の推進の中で言論の自由を認め、新聞・雑誌・書籍の出版が盛んになりました。占領の影響で、ジャズ音楽やハリウッド映画などのアメリカ文化が広まり、人々に親しまれました。娯楽や文化は戦争中の統制を解かれ、街には「リンゴの唄」などの明るいロディが流れて、人々に解放感を与えました。

また、黒澤明などの映画が海外でも高く評価され、1949年(昭和24)年に、物理学者の湯川秀樹が日本人として初めてノーベル賞を受賞するなど、人々を元気づけるできごともありました。

テレビの普及と文化の大衆化

戦後も、戦前から普及していたラジオと映画が大衆の娯楽の中心でしたが、1953年にテレビ放送が始まり、高度経済成長期にテレビが急速に普及しました。テレビによって、芸能やスポーツなども家庭で楽しめるようになり、歌手の美空ひばりや、プロ野球の長嶋茂雄や王貞治、相撲の大鰐、プロレスの丹波山などが人気を集めました。半導体技術が発達し、家庭用テレビが普及しています。

8 わが家にテレビがやってきた ▶マスメディアの発達と戦後の文化

学習課題 2 戦後から高度経済成長期にかけて、人々の生活や文化はどのように変化したのでしょうか。

4 湯川秀樹 (1907～1981) 電子理論を発見してノーベル物理学賞を受賞した。のちに長崎原爆に反対する立場をとり、平和運動に尽力した。

歴史の窓 ゴジラが見た日本社会

怪獣映画『ゴジラ』の第1作は、1954年11月に公開されました。ゴジラは、南太平洋の海底で生き残った太古の恐竜で、水爆実験によって眠りから覚め、水爆のエネルギーを体にためた怪獣となって人類を襲うという設定でした。同年3月には、アメリカが太平洋のビキニ環礁で水爆実験を行って、日本のマグロ漁船第五福竜丸が被ばくし、原水爆禁止運動が高まっていました(←p.263)。冷戦下の核開発と、反核運動の高まりの中で映画は公開されたのです。

1971年に公開された第11作『ゴジラ対ヘドラ』は、汚染された海のヘドラを食べて巨大化する怪獣ヘドラとゴジラが戦う設定で、高度経済成長期に発生した公害問題(←p.271)を背景にしています。エンターテインメント性の高い特撮映画にも、当時の社会問題が映し出されています。

▶6 映画『ゴジラ対ヘドラ』のポスター

歴史の窓 ゴジラが見た日本社会

怪獣映画『ゴジラ』の第1作は、1954年11月に公開されました。ゴジラは、南太平洋の海底で生き残った太古の恐竜で、水爆実験によって眠りから覚め、水爆のエネルギーを体にためた怪獣となって人類を襲うという設定でした。同年3月には、アメリカが太平洋のビキニ環礁で水爆実験を行って、日本のマグロ漁船第五福竜丸が被ばくし、原水爆禁止運動が高まっていました(←p.263)。冷戦下の核開発と、反核運動の高まりの中で映画は公開されたのです。

1971年に公開された第11作『ゴジラ対ヘドラ』は、汚染された海のヘドラを食べて巨大化する怪獣ヘドラとゴジラが戦う設定で、高度経済成長期に発生した公害問題(←p.271)を背景にしています。エンターテインメント性の高い特撮映画にも、当時の社会問題が映し出されています。

▶6 映画『ゴジラ対ヘドラ』のポスター

2節 世界の多様化と日本 273

▲ p.272-273

2 世界多様化と日本 273

2 世界多様化と日本 273

歴史を深らう

戦争の記憶をつなぐ人々

戦争が人々の生活や社会にもたらす影響は、計り知れません。過去の戦争では、多くの人が生命や財産を犠牲に、心に深い傷を負いました。日本はそうした経験をもとに、戦争を歴史として受け継ぎ、平和な時代を築いています。これらが戦争の記憶を残し、二度と戦争を繰り返さないための、人々の取り組みや覚悟を伝えることができます。

戦争体験者の声を残す

日本では、兵士として戦争を体験した人々や、空襲の被害や疎開を体験した人々が語り部となって、戦後に生きる人々のために自らの経験を語り継いでいます。しかし、そうした活動は、戦争を体験した人々が高齢になり、減少していくことが懸念されています。そうしたなかで、若い世代による語り継ぎなど、戦争の記憶を未来に残すための取り組みが各地で行われるようになっています。

2 ひめゆり学徒隊の手記

このような手記をまとめた資料も、戦争体験を知る手がかりになります。

3 沖縄戦の記憶を語り継ぐ

沖縄戦の記憶を語り継ぐ。若い世代の取り組み。沖縄戦の記憶を語り継ぐ。若い世代の取り組み。

4 各地に残る戦争遺跡

戦争の記憶が刻まれた施設は、戦争遺跡として保存され、私たちに戦争の歴史を伝えます。

5 空襲を受けた鉄橋の一部(神戸市)

1945年には全国各地で空襲を受けました。その後の復旧が行われた地域には、戦争の記憶が残り、戦争の歴史を伝える役割を果たしています。

6 軍事用の資材を再利用したとされる像(東京市)

空襲では、軍事用の資材が再利用されました。かつての軍用地や飛行場があった地域では、空襲の記憶を伝えるために、戦争の歴史を伝える役割を果たしています。

▲ p.248-249

視点を変えて、学習内容を捉えなおす特設ページ

歴史の動きについて、本時ページには登場しない人物の視点や、後の時代への影響やつながりなどの視点から、生徒が捉えなおすことができるページです。全体で20テーマを設けています。たとえばp.248～249では、第二次世界大戦の記録や記憶を継承する人々の取り組みを取り上げ、生徒が現代の私たちと過去の戦争とのつながりに気づけます。またp.268～269では、現代の日本の領域をめぐる課題について、明治期の領土の画定(p.176～177)と結び付けながら学習することができます。

13 形づくられる日本 ▶領土の画定と北進・南進

学習課題 2 国際関係が変化するなかで、日本と北進・南進の経緯はどのように変化したのでしょうか。

1 領土の画定

西暦の近代化と領土の画定。領土の画定は、国家の発展と関係が深い。領土の画定は、国家の発展と関係が深い。

2 北進の経緯

北進の経緯は、領土の画定と関係が深い。北進の経緯は、領土の画定と関係が深い。

3 南進の経緯

南進の経緯は、領土の画定と関係が深い。南進の経緯は、領土の画定と関係が深い。

2節 世界の多様化と日本 273

▲ p.272-273

2 世界多様化と日本 273

2 世界多様化と日本 273

世界の人々とともに、平和を語り継ぐ

「戦争の記憶を未来に伝える。次世代の人々へつなぐ」という課題は、戦争を経験した世界各国に共通するもので、当時の状況を伝える資料や建物、戦争を体験した人々の証言などによって受け継いでいくことが求められています。大戦中や戦後の戦況を伝えるアウシュビッツなど、悲惨な歴史をもつ地域では、戦争に関する資料を収集・保存・展示する資料館や博物館を建て、歴史の継承に取り組んでいます。

また、国内だけでなく、世界に向けて戦争の記憶を伝える取り組みも重要です。原爆の被害の実態を世界に発信し続けてきた広島平和記念資料館では、海外の資料館・博物館などの交流を広げ、海外での展示の場を増やしたり、情報交換を進めたりしています。

近年では、インターネットの普及とともに、ウェブサイトとして記録を残していく取り組みも進められています。地方公共団体や地元企業、大学や高校、ボランティアの人々などによって、「沖縄平和学習アーカイブ」「ヒロシマ・アーカイブ」「ガザ・アーカイブ」などのウェブサイトが作成されています。沖縄戦や広島・長崎の原爆投下による被害について、体験者の証言映像や、当時の実態を伝える写真などをデジタル上の空間で公開し、インターネット上で閲覧できるようにしています。情報通信技術の発展により、大規模に蓄積された資料を保存し、戦争の記憶をより広く伝えようとしています。

3 アウシュビッツの歴史を説明する、中谷敏さん

4 広島平和記念資料館の展示を学ぶ

5 保存工事が行われた原爆ドーム(1967年 広島県広島市)

6 原爆の被害を伝える児童戦争遺跡として、世界遺産に登録されています。国内外から多くの観光客を受け、平和と同時に、被爆者の犠牲を伝える役割を果たしています。

7 原爆の被害を伝える児童戦争遺跡として、世界遺産に登録されています。国内外から多くの観光客を受け、平和と同時に、被爆者の犠牲を伝える役割を果たしています。

▲ p.248-249

視点を変えて、学習内容を捉えなおす特設ページ

歴史の動きについて、本時ページには登場しない人物の視点や、後の時代への影響やつながりなどの視点から、生徒が捉えなおすことができるページです。全体で20テーマを設けています。たとえばp.248～249では、第二次世界大戦の記録や記憶を継承する人々の取り組みを取り上げ、生徒が現代の私たちと過去の戦争とのつながりに気づけます。またp.268～269では、現代の日本の領域をめぐる課題について、明治期の領土の画定(p.176～177)と結び付けながら学習することができます。

13 形づくられる日本 ▶領土の画定と北進・南進

学習課題 2 国際関係が変化するなかで、日本と北進・南進の経緯はどのように変化したのでしょうか。

1 領土の画定

西暦の近代化と領土の画定。領土の画定は、国家の発展と関係が深い。領土の画定は、国家の発展と関係が深い。

2 北進の経緯

北進の経緯は、領土の画定と関係が深い。北進の経緯は、領土の画定と関係が深い。

3 南進の経緯

南進の経緯は、領土の画定と関係が深い。南進の経緯は、領土の画定と関係が深い。

2節 世界の多様化と日本 273

▲ p.272-273

2 世界多様化と日本 273

2 世界多様化と日本 273